

$(6.1+6.5+9.4+14.6+18.9+22.1+25.8+27.4+23.8+18.5+13.3+8.7) \div 12 = 16.258\cdots \rightarrow 16.3^{\circ}\text{C}$
 これを資料2の昭和46年から平成12年までの年間の平均気温と比較すれば、
 $16.3 - 15.9 = 0.4^{\circ}\text{C}$ 上昇したことになる。

重要 問2 資料4は雨温図である。東京とロンドンの降水量を比較すると、東京は100mmを超える月が多く、200mmを超える月もある。一方、ロンドンでは年間を通して50mm程度である。資料5を読むと、イギリスは天気が変わりやすく、「雨は降ったとしてもパラパラという程度だし、強く降ることがあってもふつうはすぐやむ」とある。よって、降水量自体も少ないし、すぐにやむからかさをささないということになる。

問3 資料6の川柳は、にわか雨が降ると多くの人がごふくや(越後屋)の名前が書いてある越後屋の貸し傘(資料7)を借りて使っている様子を表している。ということは、そのメリットは広告になるということだと考えられる。

やや難 問4 A市のサービスは上手くいかず、地域Bと企業Cのサービスが上手くいったことを対比させる。Aのサービスが廃止になったのは、かさが返却されなかったことが原因である。ということは、BとCの返却された仕組みに注目すればよい。Bでははじめ返却されなかったが、貸し出す範囲を決め、申込書に氏名と連絡先を記入することで返却されるようになった。Cは再び訪れる人が多い場所に設置して返却をされている。ということは、①範囲が広いこと、②何度も訪れないことで返却されなかったと考えられる。

2 (社会：資料の読み取り，資料分析)

問1 ポスターでもっとも混雑する時間帯を挙げ、さらにその前後の時間ごとの混雑状況を告知することで、乗客は少し時間をずらして電車に乗るようになり、極端な混雑を緩和できればと考えている。設問で「どのようなことを期待しているのか」と書かれているので「～という期待」という形で答えるのがよい。

重要 問2 資料3では昼夜間人口比率は千代田区が1460.6%なのに対し、江戸川区は82.4%となっている。つまり、千代田区は非常に多くの人が入り込んで、一方江戸川区は100%以下なので流出人口が多いことがわかる。このことを説明するのに資料4、資料5、資料6の3つのうち2つ以上を使って説明する。もちろん解答例のように3つすべて使っても構わない。2つを使う場合は、資料4と資料6、または資料5と資料6の組み合わせにするのがよい。資料6から、千代田区への流入人口が非常に多く流出人口は非常に少ない、江戸川区は流入人口よりも流出人口が多いので、資料4または資料5で理由付けをする。資料4であれば、千代田区は大きな企業が多くあるのが流入してくる理由、資料5であれば江戸川区は住宅用地が多いのが流出の理由となる。

やや難 問3 資料7の写真と資料8のグラフを組み合わせる。資料8をみると、自動車台数が増えるのともなって都電の車両数が減ったといえる。さらに資料7をみると、都電がじゃまになるくらい自動車が多く通っていることがわかる。

問4 国立霞ヶ丘競技場、日本武道館、オリンピックの選手村というオリンピックに関連する3つの施設はすべて高速道路のそばにある、また、高速道路の始点は東京国際空港である。これらがつながっていると便利なのが理由だと考えればよい。

3 (理科：考察，条件整理，実験)

基本 問1 資料1のように、かき混ぜるとそこには空気がたくさん含まれる。また、溶けて液体になった後再び固めた場合、空気が抜けることで資料2のようにアイスクリームの体積は減っていると考えられる。つまり、空気の気泡がたくさん入ることによってやわらかい食感がもどるという